
所 報

1. 所員の移動についての報告

この一年間における本教育研究所員の移動としては、1984年三宅教授のあとを受けて、研究所長を務めてこられた村木正武教授が1988年3月に定年退職をされたことがある。村木前所長の本学における御研究と業績などについては、「教育研究」の30号（1988年3月発行）に掲載された小林栄智教授の「村木正武先生ご退任にあたって」と題する一文（13～20頁）に詳しいが、1959－1960年に本研究所の特別研究生として来学されて以来一時、米国留学された期間があったとはいえ、四半世紀に近い本研究所に属しての研究と最後の4年間は所長として教育研究所の維持に励まれた。

1984年9月から visiting assistant professor として本学教養学部教育学科で教えておられた David Rackham 博士が1987年9月から正式に本学の専任助教授となられ、教育研究所の所員となりました。

2. 研究所活動報告（1987年9月－1988年8月）

1. 講演会

- ① 1987年10月7日, Dr. Gerhard Nickel. “Linguistics across Cultures : Theory and Applications”
- ② 1988年2月12日, 広瀬正宜助教授「日本語教育の最近の動向」

2. 研究員

研究員 (Research Associate)

- (1) Robert Solodow, P.h. D. 本籍：米国，在住地：東京都渋谷区，専攻：臨床心理学，研究題目：ライフダイナミックスセミナーへの参加者日本人25,000名の体験と個人的変化の経年的効果に関する懐古的・予後的研究，研究期間：1988年4月26日～1989年4月25日，指導教授：星野 命，保証人：同左

研究見習員 (Research apprentices)

- (1) 原 和子，元東洋英和女学院教諭，住所：東京都港区，研究題目：帰国子女教育問題，研究期間：1987年4月～1989年3月，指導教授：星野 命，保証人：三宅 彰

- (2) 岩原典子, 栃木県小山西高校教諭(現), 住所: 栃木県小山市, 研究題目: 教具としてのパソコンを利用した英語の学習について, 研究期間: 1988年4月~9月, 指導教授: 石本菅生, 保証人: 同左
- (3) 塚本恵美子, コロンビア大 M.A. 住所: 埼玉県入間市, 研究題目: 帰国生および転校生の適応と家庭教育について, 研究期間: 1987年5月~1989年3月, 指導教授: 星野 命, 保証人: 同左

3. 見習研究員の受賞

上記(3)の塚本見習研究員は1988年3月27日付下記の応募論文によって二つの賞を受けた。

受賞名: ① 第13回国際理解教育奨励賞最優秀賞(国際理解教育研究所, 事務局帝塚山学院大学内)

② 帝塚山学院賞(帝塚山学院)

論文題目: 「家庭における国際理解教育とは——異文化を体験した母親の意識調査から——」

4. 共同研究等

教育哲学研究室

- (1) 「道徳教育における宗教教育の意義に関する基礎的研究——日・独・米の比較を中心に——」(文部省科学研究費補助金〔一般研究B〕による) 研究代表者: 讃岐和家, 分担研究者: Ben C. Duke, 立川 明, 吉岡良昌, 下山田裕彦, 永島孝子, 高橋 浩, 結城敏也, 山室吉孝, 佐藤尚子, 松浦良充(昭和62年度助成額800,000円)
- (2) “Future Leaders of Japan, The United states and England in Elite Schools of Today—An International Comparison of Attitudes Toward the Future, Their Country, and Themselves” (Japan Institute for Social and Economic Affairs 研究補助金による。研究代表者: Ben C. Duke. (1988-’89)

心理学研究室

- (1) 「大学教員のための教授資質開発(FD)プログラムの策定と実践的試行」(文部省科学研究費補助金〔一般研究B〕による)。研究代表者: 原 一雄, 研究分担者: 13名。(1988.4-1991.3)
- (2) 「青年期における異文化体験の自尊感情と自我同一性に及ぼす影響」(文部省科学研究費補助金〔一般研究C〕による)。研究代表者: 星野 命, 分担研究者: 長井 進

研究室活動報告（1987年9月－1988年8月）

教育哲学研究室

〈人の動き〉

研究休暇

讃岐和家教授：1987年9月～88年8月

ベンジャミン・C・デューク教授：1988年9月～89年3月

金子武蔵教授（1971年4月から1975年3月まで大学院教授，1975年4月から85年6月まで客員教授）は，1987年12月31日，心筋梗塞で死去された。

高橋浩副手および松浦良充副手は，1988年3月に退任。影山和子，大川 洋，副手に就任（1988年4月より6月まで）。

〈研究活動〉

共同研究

「道德教育における宗教教育の意義に関する基礎的研究——日・独・米の比較を中心に——」（昭和62年度文部省科学研究費補助金交付一般研究B）：讃岐和家を研究代表者として，研究のとりまとめを行い，1988年3月，研究成果報告書を刊行した。

講演会・研究会

1987年9月6～7日：大学院教育哲学研究室秋季研究合宿（修士論文中間発表を中心に）

1988年1月28日：小林政吉教授（東洋英和女学院短期大学）講演会「現代の教育哲学とキリスト教——教育学の自律性をめぐって——」

1988年2月3日：教育学科教育学専修生卒業論文・大学院教育哲学専修生修士論文発表会

1988年4月10～11日：大学院教育哲学研究室春季研究合宿（新入生研究発表および修士論文構想発表を中心に）

ICU 教育セミナー

1988年7月25～26日：東京青山会館にて。卒業生教員および学部学生・大学院生，教員の計約50名参加。教科指導に関する実践レポートが多数出て，大変有意義であった。

なお，大学院教育哲学研究室とその卒業生とを中心とする「ICU 教育学会」設立の

ための発起人会が発足した。

讃岐和家教授

I. 研究活動

1. 前年度に引き続き、文部省科学研究助成金による一般研究『道德教育における宗教教育の意義に関する基礎的研究——日独米の比較を中心に——』に研究代表者として参加し、全体の総括および日本におけるキリスト教教育の研究を行い、1988年3月、報告書を発表した。
2. 本学の原一雄教授を研究代表者とする文部省科学研究助成金による「ファカルティ・ディヴェロップメントに関する研究」に研究分担者として参加した。
3. キリスト教教育哲学の研究を行った。

II. 研究発表等

1. 1987年9月5日－6日に行われた日本デュ－イ学会大会（於玉川大学）の課題研究に司会者として参加した。
2. 1987年10月15日、三鷹市・成人教育関係団体指導者研究会（於三鷹市教育センター）において、「臨時教育審議会の答申について」と題して講演を行った。
3. 1987年10月17日－18日に行われた教育哲学会大会（於名古屋大学）の自由研究第1日目、第1室の司会者をつとめた。
4. 1988年3月24日－26日、キリスト教学校教育同盟主催の「中・高教師会」（於小倉厚生年金会館）において「キリスト教学校教師の力量」と題して2回の講演を行った。
5. 1988年6月11日－12日に行われた一般教育学会（於上智大学）の課題研究部会において「FD関連活動の基本形態」の報告を行った。
6. 1988年8月10日－12日に行われたキリスト教学校教育同盟・関東地区初任者研修会（於箱根アカデミーハウス）において2回の講演、「現代日本におけるキリスト教教育の役割」および「これからのキリスト教学校の教師に期待されるもの」を行った。
7. 1988年8月27日－29日、民主教育協会主催の「今日の大学教育」セミナー（於富士吉田人材開発センター）に参加し、「大学の教育機能活性化の現状と課題」と題して、話題提供を行った。

III. 論文等

1. 「キリスト教学校のカリキュラム」、キリスト教学校教育同盟（編）、『キリスト教学校の教育』、1987年12月、pp.70－79.
2. 「人権と道德教育」、教育開発研究所刊、『教職研修』、1987年11月号。

3. 「各大学は一年ごとの最低履修単位数を規定すべきである」, 教育開発研究所刊, 『教職研修』, 1988年2月号, pp.80-82.
4. 「道徳教育における宗教教育の意義」, 讃岐和家(編)『道徳教育における宗教教育の意義に関する基礎的研究——日独米の比較を中心に——』(昭和62年度文部省科学研究費補助金交付一般研究B), 1988年3月.
5. 「日本のキリスト教主義学校における宗教教育と道徳教育」, 同上所収.

Ⅳ. その他の活動

1. 一般教育学会, 常任理事, 学会誌常任編集委員
2. キリスト教教育学会, 常任理事
3. 文部省, 一般教育視学委員
4. 三鷹市, 教育委員
5. 民主教育協会, 「今日の大学教育」セミナー実行委員

川瀬謙一郎教授

I. 研究課題

宗教社会学における人格形成論の研究

Ⅱ. 学 会

第38回日本倫理学会大会(10月5, 6日・北海道大学)

ベンジャミン・C・デューク教授

Research Activities

Continues positive studies on school education in US and Great Britain by personally visiting a few elite schools in these countries.

Travel

India (July 1988)

Europe (August 1988)

United States (August 1988)

Others

English Editor, *Japanese Journal of Educational Research*, Japan Society for Education

立川 明準教授

I. 研究活動

ニュー・イングランド諸州に於けるランド・グラント・カレッジの成立を比較考察するため, イェール大学, ブラウン大学, コネチカット州, ロード・アイランド

州等の古文書館で第一次資料を収集し、その分析を行っている。

また、太平洋高等教育学会の研究課題の一つとして、太平洋地域の高等教育機関の協力関係に関する可能性と問題とを、体系的に考察する仕事を行っている。

その他の活動としては、関東地区教職課程研究連絡協議会の研究部会に於て、社会科教授法にかかわるビデオ教材を開発中である。

Ⅱ. 学会発表等

1. 1987年11月26-27日 ICU で開催された ACUCA の研究大会に於て、“Engineering and Christianity in Higher Education” と題する発表を行った。
2. 1987年12月 5 - 6 日河口湖町の富士桜荘で行われた第10回大学史研究セミナーに於て、「19世紀アメリカのカレッジは民衆収奪機関になり下がってしまったのか：O. A. ブラウンソン・テーゼの検証」と題する研究発表を行った。
3. 1988年 3 月11-12日米国ミシガン州フェリス州立大学で行われた Annual Conference on Humanities, Science and Technology に参加し，“Humanities, Science and Technology in Nineteenth Century Massachusetts” と題する研究発表を行った。
4. 1988年 8 月17-19日韓国ソウルのヒルトン・ホテルで開催された Pacific Region Association for Higher Education に参加し，“Problems and Prospects in International Cooperation” と題する発表を行った。

Ⅲ. 著 作

- 1 「二つの科学とランド・グラント・カレッジ」『日本の教育史学』X X X (1987), 129-148.
- 2 “Origins of the Internationalization of Higher Education in Post-War Japan.” *The Internationalization of Higher Education : PRAHE Proceedings*, 1987, 225-230.
- 3 “Science and Religion in Higher Education : A Study in Nineteenth-Century Massachusetts.” 讃岐和家編『道徳教育における宗教教育の意義に関する基礎的研究』（科学研究費報告書），1988，65-74.

Ⅳ. その他

1. 日本教育学会『教育学研究』英文校閲係
2. Pacific Region Association for Higher Education, Board Member
3. 大学セミナー・ハウス国際学生セミナー委員会委員

林 昭道助教授

I. 研究活動（前回につづいて）

1. ドイツを中心にした教育思想史研究
2. ゲーテの作品が示す人間性の豊かさに含まれる意義と、その教育との関係の吟味

佐藤尚子副手

I. 研究活動

- 中国ミッションスクールの歴史を考察し、学位論文「二十世紀前半の中国におけるキリスト教学校とナショナリズム—高等教育を中心に—」として研究をとりまとめた。
- 近代中国教育史におけるアメリカの影響を、当時の教育思想の分析を通して検討中である。

II. 学会発表等

- 1987年10月2日 教育史学会31回大会（於北海道大学）において「北京崇貞学園—日本人クリスチャンの中国における教育事業—」と題する研究発表を行った。
- 1988年5月21日 筑波大学教育学研究科外国教育史教育室合同研究会において「東洋教育史の研究動向」を報告

III. 著 作

- 「中国におけるデューイ批判」1987年12月、比較思想学会紀要『比較思想』14号所収
- 「戦前日本のキリスト教学校」1888年3月、文部省科学研究費研究成果報告書『道徳教育における宗教教育の意義に関する基礎的研究』に所収
- 「教育権回収運動の発生と展開—中国ナショナリズムとミッションスクール—」1888年4月、明石書店刊『教育のなかの民族』所収

結城敏也副手

I. 研究活動

- 日本総合愛育研究所において前年にひきつづき、プロジェクト研究に従事。
- 讃岐和家教授のもとで科学研究費補助金研究「道徳教育における宗教教育の意義に関する基礎研究」に従事。
- 教育と遊びについての考察を行う。

II. 論 文

- 『学業不振の実態とその改善に関する研究 第1報 —養護施設児の算数学力の

分析一』権平俊子・山本清恵・吉川政夫・八木義弘・小田正敏の各氏と連名（日本総合愛育研究所紀要第23集 1987年12月）

- 「P. ティリッヒにおける宗教理解の構造」（教育研究30掲載 1988年3月）
- 「シュタイナー再考」 昭61・62年度科学研究費補助金（一般研究B） 研究報告書『道徳教育における宗教教育の意義に関する基礎研究—日・独・米の比較を中心に』掲載

影山和子副手

I. 研究活動

1. 近代日本の教育に於けるアメリカ思想の展開——W. James と成瀬仁蔵をめぐって——
2. Media に働く女性及び Media に描かれる女性像の研究—日本及び国際比較—

II. 研究発表

1. 1988年8月15日：日本女子大学軽井沢三泉寮において、「成瀬仁蔵の教育論について」と題して講演を行った。
2. 1988年8月25日～27日：国際女性学会東京会議（於東京女子大学）の Workshop A：Media と女性において総括報告を行った。

心理学研究室

〈人の動き〉

- | | |
|---------|---------------------------------|
| 1987.9 | David Rackham 客員教授は専任助教授となる。 |
| 1987.9 | 森田聖子非常勤副手に就任 |
| 1987.10 | 久宗百合子非常勤副手に就任 |
| 1987.12 | 都留春夫教授は2学期間の特別研究期間を終えて復帰 |
| 1988.4 | 向井敦子講師は1年間の特別研究期間を終えて復帰 |
| | 星野命教授は、本学研究所長と教養学部教育学科長を兼務 |
| | 道又爾, 乙竹佐和, 髪岩秀章および福田憲明が非常勤副手に就任 |

非常勤講師

- | | |
|--------|-------------------------------|
| 1987 秋 | 高頭忠明「精神衛生」 |
| 冬 | 鳥居修晃「知覚と認知の心理学」 |
| | 高頭忠明「教育心理学研究Ⅷ（精神分析学）」（院） |
| 1988 春 | 平木典子「ガイダンス・カウンセリング研究Ⅰ（ガイダンスの基 |

礎)」(院)

心理学談話会・講演会

1988.4.26 小谷英文助教授による「わが国の臨床心理学の将来と ICU の教育プログラム ——臨床心理士の資格認定をめぐる——」

論文発表会

1988.1.30 修士論文発表会 発表者：足立智昭，伏見晃子，巖岩秀章，鹿志村和子，鈴木義也の5名
 1988.2.8 卒業論文発表会 発表者：12名
 1988.6.14 卒業論文発表会 発表者：4名

セミナー

1988.7.4-7 心理学サマーセミナー 於 八王子大学セミナーハウス
 (3泊4日) 参加者：教員8名，学生65名余り
 (実行委員長 早川枝里，アドバイザー 原 一雄)

その他

1988.2.26 非常勤講師慰労会 於 東信閣

原 一雄教授

I. 研究活動

1. 神経心理学的研究：脳波における大脳半球の機能的非対称性
2. 環境心理学的研究：大学キャンパスの教育環境の評価
3. 高等教育に関する研究：
 - a) 大学教員の教授資質開発(FD)プログラム
 - b) 一般教育ハンドブックの編纂

II. 学会発表等

1. “A factorial analysis of the effects of studying abroad on high school students' national stereotypes”, Higher Educational Research Association (HERA) (於ハワイ大学) 1988.1.6.
2. 「『良い授業』についての一調査研究」 一般教育学会第10回大会 (於上智大学) 1988.6.12

Ⅲ. 著 作

1. (共訳)『喫煙と社会 第1,2部』 R.D. トーリソン (著) 平凡社 1987 421頁
2. (監訳)『ひととはなぜたばこを喫うのか』 A. ウイッテラー, J. von トロシュケ (共著) 後藤富士雄 (訳) 新曜社 1988 312頁
3. (編著)『たばこを考える(2)』第三部 「たばこ」と「からだ」と「こころ」 (財)たばこ総合研究センター編 平凡社 1988 366頁
4. (Editor) "*The Internationalization of Higher Education—Proceedings of the 1987 Annual Conference of Pacific Region Association for Higher Education Held at International Christian University, Mitaka, Tokyo, JAPAN. August 18–20. 1987.*" ICU, 1987. pp.306.
5. "Self appraisal of international experiences on campus : Comparisons among sub-groups of university constituents", In Hara, K. (ed.) "*The Internationalization of Higher education.*" ICU, 1987, 269–278.
6. 「一般教育の自己評価—(3)私立大学の場合」『一般教育学会誌』第9巻第2号 1987, 37–43.
7. 「日本私立大学連盟とFD活動」『大学時報』第199号 1988.3, 86–93.
8. 「卒業生による ICU 在学経験の評価」『国際基督教大学図書館公開講演集第3集』1988. 3, 73–126.

Ⅳ. その他

1. (随想)「外国語と国際語」『TASC MONTHLY No.146』(財)たばこ総合研究センター 1987 3頁
2. (大学礼拝メッセージ)「信仰と学問：私のねがう心理学」1988.1.26.
3. (教授会退修会発題)「教養学部とFD活動」(於富士吉田, 人材開発センター) 1988.3.17.
4. (研究助成金)文部省科学研究費(一般研究B)「大学教員のための教授資質開発(FD)プログラムの策定と実践的試行」(研究代表者)
5. 学会役職
 - (1) 日本心理学会, 『心理学研究』, 『Japanese Psychological Research』誌編集委員
 - (2) 日本生理心理学会, 運営委員, 『生理心理学と精神生理学』誌編集副委員長, 英文アブストラクト委員
 - (3) 日本基礎心理学会, 運営委員, 『基礎心理研究』誌常任編集委員
 - (4) 日本教育心理学会, 『教育心理研究』誌編集委員
 - (5) 一般教育学会, 評議員
 - (6) 広島大学大学教育研究センター客員研究員

- (7) 国際基督教大学神経言語研究会，運営委員，『J. of. Neurolinguistics』誌
Associate Editor

星野 命教授

I. 研究活動

1. 前年に引き続き5月まで東京学芸大学海外子女教育センターにおける「帰国子女の心理臨床的研究プロジェクト」に座長として参加し，研究会を重ねた。また10月には，同センターの「データベース研究プロジェクト」に参加して，「異文化間心理学」について研究発表を行なった。
2. これも前年に引き続き，源了圓教授を代表者とする「日本文化における『型』の研究」に分担研究者の一人として参加し，9月1日，11月14日および1988年3月26日に行われた研究会の討議に参加した。分担課題は「日本人の出会いのパターン」である。
3. さらに，二年間の科学研究補助金（一般C）を得て行われた「青年期における異文化体験の自我同一性ステータスに及ぼす影響」は3月一杯で研究を終了し，その結果をまとめた報告書を共同研究者の長井進常磐大学と協力して作製発行した。
4. 新たに京都大学教育学部小林哲也教授を代表者とする「米国大学院留学の効果に関する研究」（松下財団科学研究助成金による）に参加し，1988年7月から研究計画打合せ会議に臨んだ。これは第二次大戦後日本及び西ドイツからアメリカ合衆国の大学院に学んだ留学生の帰国後の自文化への再適応やその後のキャリア・デヴェロプメントと社会的貢献などを通じて留学体験が個人的・社会的にどのような効果をもたらしたかを面接・質問紙を用いて調べようとするもので，2年間で予定された研究期間である。

II. 学会発表等

1. 10月11日に京都大学教養部において開催された第41回日本人類学会，民族学会連合大会においてシンポジウム『異文化接触の随伴現象と成り行き：対人間及び集団間』の企画者と司会者をつとめた。国際学校，混乗船，難民定住促進センター，ブラジル日系移民などをめぐる異文化接触の問題をとりあげて討議にも加わった。
2. 10月13日に東京大学教養学部において開催された日本心理学会第51回大会においてシンポジウム5「コミュニティ心理学の展開」のコメンテーターをつとめた。
3. 10月16日に国立教育会館（虎の門）で開催された日本教育心理学会の第29回総会においてシンポジウム1「発達課題を考える」の企画者と司会者をつとめた。
4. 1988年3月19-21日箱根対岳荘において開催された第13回コミュニティ心理学シンポジウムにおいて「学会活性化のネットワーキング」と題して研究発表を行なった。これは，日本人間性心理学会第6回大会の準備段階の諸プロセスへの参加観察

に基づく結果をまとめたもの。

5. 下記の学会の大会・公開討論会に出席した。

5月13-15日 日本民族学会第25回研究大会 於中部大学

5月21-22日 異文化間教育学会第9回大会 於専修大学

5月28日 日本社会心理学会公開討論会 於東京都立大学

6月4・5日 日本家族心理学会第5回大会 於文教大学

6月25・26日 日本コミュニケーション学会第18年次大会 於同志社大新島会館

7月1・2日 人類動態学会第23回大会 於鹿屋体育大

6. 8月2日, 日本心理臨床学会第19回大会(於東京都立大学・都ホテル東京)の, 研究発表セクションD, 及びシンポジウム「生と死をめぐって」の, 指定討論者をつとめた。

7. 8月22日, オーストラリアのニューキャッスル大学で開催された異文化間心理学会第9回国際会議におけるシンポジウム“Problems in Reentry”において“Case Studies of Returned Japanese Children and Youth”と題して口頭発表を行なった。

8. 8月28日～9月2日, オーストラリアのシドニーのダーリング・ハーバー・コンベンション&エキシビションセンターで開かれた第24回国際心理学会議に参加した。

Ⅲ. 著 作

1. 帰国子女の適応(自文化復帰), Health Science, Vol.3, No.1, 1987, 30-34頁。
2. 日本人の異文化体験。「21世紀ひょうご」vol. 41, 26-32頁
3. 青年期における異文化体験の自尊感情と自我同一性に及ぼす影響。(昭和61・62年度科学研究費助成金(一般研究C)研究成果報告書, 1988, (長井進との共著) 1-39頁。
4. 転校生の問題—帰国児童生徒を中心に—「教育と医学」, 4, 1988, 48-58頁。
5. おのが個性の伸長と生きがい, 「児童心理」4, 1988, 119-128頁。
6. 「文化摩擦」「文化ショック」の理解, 『教職研修増刊 No.48国際化教育読本』, 教育開発研究所, 1988, 88-90頁。
7. 成人期における心理的諸問題, 上智大学学際的共同研究報告書「ライフサイクルと人間の意識」(昭和62年度), 1988(7月), 9-19頁。

Ⅳ. その他

1. 次の各大学に非常勤講師として出講した。

- ① 東京国際大学大学院社会学研究科「異文化間社会心理学」(通年)
- ② 東京都立大学大学院心理学研究科「社会心理学特論」(後期のみ)

- ③ 青山学院大学大学院教育学研究科「臨床心理学（グループ・アプローチ）」
（1988年前期）
- ④ 北陸学院短期大学保育科「精神衛生」（集中講義）（1987.11.26－28）
- 2. 日本学術会議第13期心理学研究連絡会議に日本社会心理学会常任理事として出席（9月，1988年6月）
- 3. 私立大学連盟広報委員会に委員の一人として出席（9月）
- 4. 東京多摩いのちの電話運営委員・研修委員，全体研修会において「危機介入について」発表（1988. 1. 9）
- 5. 日本人間性心理学会第6回大会準備委員会委員・同事務局長（1988年9月まで）
- 6. 財団法人日本精神衛生会企画委員・「心と社会」編集委員
- 7. 異文化間教育学会理事（紀要編集担当）
- 8. 日本心理臨床学会監事
- 9. 中野区立第三中学校 PTA 家庭学級において「教育とこころの国際化」と題して講演（1987. 9.18）
- 10. 小平市津田公民館成人学級において「いのちの電話の現状と課題」について講演
- 11. 東京学芸大学海外子女教育センターデータベース研究プロジェクトにおいて「異文化間心理学について」口頭発表（1987.10.28）
- 12. 「文化と人間」の会主宰者（1988年3月まで）のち顧問に。
- 13. 佐藤玩具文化財団研究奨励金及び論文コンテスト審査委員。
- 14. アジア経済研究所における「技術移転」をめぐるシンポジウムにコメンテーターの一人として参加（1988. 2. 6）
- 15. 日本臨床心理士資格認定協会の設立にともない評議員となり，設立記念総会および評議会に出席（1988, 3. 8, 4.10）
- 16. 都下原町田市教育相談所所員研修会において「心理臨床家の性差」につき講演（1988. 3.28）
- 17. 校正カウンセリング第七期および第八期カウンセラー養成講座においてロール・プレイを指導。（1988. 4.17, 7.10）
- 18. 東京多摩いのちの電話ボランティア研修講座（第七期）開講講演「いのちの四季」（1988. 4.23）
- 19. 名古屋市の淑徳女子短大コミュニケーション学科特別講義「異文化理解とコミュニケーション」を担当（1988. 5.14）
- 20. 「文化と人間」の会例会において「異文化間心理学研究のほろ苦さ」と題して発表（1988. 6.19）
- 21. 私立大学連盟教研委員会留学生問題分科会に出席（1988. 7.24）
- 22. 新宿朝日カルチャーセンター日本語教師養成講座「日本語と日本文化」に出講（1988年4－6月週1回，7月4－29日）

23. 東京学芸大学海外子女教育センター主催フォーラム「異文化体験と生活適応」に
司会者として参加 (1988. 7. 29)
24. 文部省主催東海・北陸地区学校カウンセラー研修講座に「いのちの四季をどう生
きるか」と題して出講 (於石川県文教会館, 1988. 8. 3)

都留春夫教授

I. 研究活動

- a) Small Intensive Group Experience
- b) Focusing の治療効果と練習法

II. 学会活動など

- a) 第1回環太平洋集団療法学会 1987.10. 8-11 東京
- b) 日本心理学会第61回大会 1987.10.14 東京
- c) 日本心理臨床学会第6回大会 1987.11.12-14 コメンテーター 名古屋
- d) 日本学生相談学会研究会 1988.4.23 東京
- e) 日本家族研究・家族療法学会第5回大会 1988.5.14-15 浜松
- f) 日本心理臨床学会第7回大会 1988.7.31- 8.2 東京 シンポジウム, 司会

III. 著作など

- a) 「出会いの心理学」講談社 (現代新書) 1988.9.20発行
- b) 『こころ豊かな子を育てる』『児童心理』第42巻(533)6号 1988年6月

IV. その他

- a) 国際基督教大学カウンセリング・センター カウンセラー
- b) 日本集団精神療法学会 理事
- c) 日本人間性心理学会 学会誌編集同人
- d) 日本・精神技術研究所 NPCC カウンセラー
- e) 研究会・研修会・セミナーなど
 - (1) 土曜会 (月例カウンセリング事例研究会) 東京
 - (2) KM ケース研究会 (月例) 東京
 - (3) 国際基督教大学心理臨床懇話会 (不定期)
 - (4) 第4回関東地区大学合同グループ・セミナー 1987.9.11-14 伊豆, 湯ヶ島
 - (5) 日本精神技術研究所 NPCC 集団精神療法セミナー 1987.10.12-25 東京, 広島
 - (6) PCA ウィーク・エンド, 1日グループ, スタッフ 1987.11. 7
 - (7) 東京グループ・アプローチ学習会 1987.11.14 研究発表司会

- (8) 国際基督教大学カウンセリング・センター 第2回グループ合宿 1987.12.1
ー4 八王子 スタッフ
- (9) 第25回全国学生相談研修会 1987.12. 6ー 8 東京
- (10) 臨床的グループ・アプローチ研究会 東京プログラム 1988. 3.18ー22 八
王子 スタッフ
- (11) 日本精神技術研究所 NPCC ワークショップ 1988. 3.26ー29 川崎 スタ
フ (フォーカシング)
- (12) フェリス女学院中学・高等学校教員修養会 1988.4. 4ー5 三浦海岸 講師
- (13) 青空フォーカシング研究会第1回集会 1988. 4.22 東京
- (14) 長岡フォーカシング研究会 1988. 6.19 長岡 講師
- (15) 東京グループ・アプローチ学習会 1988. 6.25 東京 コメンテーター
- (16) 国際基督教大学心理学サマーセミナー 1988.7.4ー7 八王子 講演, 分科
会指導
- (17) 臨床的グループ・アプローチ研究会夏季合宿研修会 (みやじまプログラム)
1988.8.17ー21 宮島 スタッフ
- (18) 第132回 PCA ウィークエンド合宿 1988. 8.27ー31 伊豆, 伊東 スタッフ
- f) 講演など
 - (1) 実習指導 国立療養所東京病院付属看護学校「コミュニケーション」
1987.11.13 清瀬
 - (2) 講演 神奈川県私立中学高等学校校長会 「カウンセリングと教育の接点」
1987.11.28 横浜
 - (3) 講演 茨城県商工経済会人間関係研究所 カウンセリング入門講座 水戸
 - i) 「カウンセリングの態度と技術」 1988. 1.31
 - ii) 「カウンセリングの体験過程」 1988. 2.24
 - (4) 講演 国立精神・神経センター 精神保健研究所 精神保健技術者研修会
「フォーカシング」 1988. 2.23 市川
 - (5) シンポジウム 私立看護大学協会 「ケアを受けた人々からみた今日の看
護」 1988. 7. 7 東京 発題
 - (6) シンポジウム 全国看護教育研究会昭和63年度総会 「看護教育における態
度の育成」 1988. 8. 3 東京 発題

栗山容子助教授

I. 研究活動

- 1. 2ー4歳児の遊びの観察を通して, 見立て, ごっこ遊びや構成の遊びなどの象徴
遊びを遊びの質, 年齢や性差から分析
- 2. 比喩理解の検討のための尺度の作成, 及び比喩理解の発達を概念カテゴリとの関

連で検討

3. 教育実習生の評価に関する研究

4. Prisoner-Dilemma Game による異文化間の社会的相互作用の分析——グループサイズが決定に及ぼす効果についての予備的研究——

Ⅱ. 学会発表等

1. 「協同的課題解決場面における日・米学生グループの社会的相互作用の分析—予備的研究—」(D.H.Rackham と共同研究) 日本心理学会第51回大会 1987.10.12—14 於 東京大学

2. 「幼児の事理解の発達」 日本教育心理学会第29回総会 1987.10.15—17 於 国立教育会館(座長)

Ⅲ. その他

1. 「こどものところとからだ研究会」 1988. 8.25—26

2. (研究会) 関東地区私立大学教職課程研究協議会研究部第1部会(実習部会)

3. 教職課程プログラム主任(1988. 4.—)

4. 三鷹市個人情報保護委員会副委員長(1987.10.—)

5. (研究助成) 昭和63年度 佐藤玩具文化財団研究助成

小谷英文助教授

I. 研究活動

(1) 難治事例に関する心理療法事例研究

- a) 個人療法的視点から見た心理力動と治療技法
- b) 集団療法的視点から見た心理力動と治療技法
- c) コンバインドセラピイの治療メカニズムと技法の体系化

(2) 集団精神療法技法の体系化に関する研究

- a) 精神分析的システムズアプローチの技法構成
- b) 対象別(精神分裂病, 性格障害, 神経症, 学童期, 青年期)技法構成の明瞭化

(3) 心理療法家の養成・訓練に関する研究

- a) スーパーバイズドインテイクの構造化
- b) 訓練法の開発: 応答構成, シナリオロールプレイ, プロセスグループ

Ⅱ. 学会発表等

(1) 日本集団精神療学会第5回大会(於青山学院大学 1988. 2. 6—7)

- a) パネルディスカッション: 日本の集団精神療法の今後
パネラー: 体系的訓練法を探究する立場から

- b) 口頭発表：集団精神療法訓練法としてのプロセスグループの可能性(1)
- (2) 日本心理臨床学会
 - a) 心理臨床ワークショップ：「集団療法の実際」を担当（1988. 7.30）
 - b) 第7回大会（於東京都立大学 1988. 7.31－ 8. 2）
 自主シンポジウム 「学生相談における心理・教育臨床－その特殊性と今日的課題－」 話題提供者：方法論を中心として
 - c) 第6回大会（於名古屋大学 1987）個人発表司会
- (3) 第1回環太平洋集団精神療法学会（於子供の城 1987.10. 9－11） ワーク
 ショップ司会：Edward L. Pinney「集団精神療法の教育」

Ⅲ. 論文・著作

- (1) 集団治療におけるサイコロジストの役割, MENTAL HEALTH, 心と社会, 1987, No.50, 31－38
- (2) 集団精神療法の訓練における体験グループの意義, 集団精神療法, 1987, Vol.4, No.1, 72－75
- (3) 杉山信作・大阪譲治・小谷英文・谷口行子・滝川一広・高田広之進, 「情緒障害児短期治療施設」(全国11施設)の記述比較研究, マツダ財団研究報告書, 1987, Vol.1, 1－10
- (4) 下山論文へのコメント：「関係性を中軸とした心理臨床理論の必要性とその構築」への期待, 東京大学学生相談書紀要, 1987, Vol.5, 32－34
- (5) 心理臨床と学校教育との接面, 季刊 精神療法, 1988, Vol.14, No.1, 5－11
- (6) 日本の集団精神療法の今後：体系的な訓練法を探究する立場から, 集団精神療法, 1988, Vol.4, No.2, 141－146
- (7) 保健室にみる現代の子どもたちの問題, 世界の児童と母性, 1988, Vol.24, 7－11

Ⅳ. その他

- (1) 講演
 - a) 研修会講演「人と人との関わりの体験」 1987年 9月25日
 「関わりの体験：事例による検討」 10月 2日
 慶応病院
 - b) 研修会講演「カウンセリングの理論」 1987年12月10日
 「カウンセリングの技術」 12月17日
 三鷹市ハッピーネスセンター
 - c) 基調講演「ロールプレイングの意義と技法」 1988年 7月26日
 スクールカウンセラー研修講座 東京都立教育研究所
- (2) 臨床指導：ワークショップ

- a) 集団精神療法セミナー・シリーズ：その始め方，展開の仕方，終わり方
日本精神技術研究所 Edward L. Pinney, M.D., University of Texas と共同企画，講師，トレーナー 担当
 - 1. 集団精神療法の始め方Ⅰ：メンバーの選定，治療契約，始め方を中心に1日セミナー 1987年10月12日
 - 2. 集団精神療法の始め方Ⅱ：事例検討から
夜間2日セミナー 1987年10月13-14日
 - 3. グループをいかに展開するかⅠ：転移，抵抗，逆転移，徹底操作を中心に夜間3日セミナー 1987年10月20-22日
 - 4. グループをいかに展開するかⅡ：中・後期の力動の理解と演習
3日間ワークショップ 1987年10月23-25日
 - 5. 広島ワークショップ：事例研究，演習，講演
臨床的グループアプローチ研究会 共催 1987年10月16-17日
- b) 事例研究指導 東京家庭裁判所所内研修 1987年11月12日
- c) 集団精神療法臨床指導 広島市精神衛生指導センター 1987年11月25日
- d) 研修指導 「保健婦の人間関係技術」 広島市衛生局 1987年11月26日
- e) 研修指導 スクールカウンセラー上級研修講座 「グループカウンセリング演習」 1988年3月8日 東京都立教育研究所
- f) 臨床的グループアプローチ研究会 「エンカウンターグループ in 東京」 ファシリテーター 1988年3月18-20日
- g) NPCC ワークショップ「集団精神療法プロセスグループ」 企画・トレーナー
日本精神技術研究所 1988年3月26-29日
- h) 事例指導 学校教育相談研究会「児童・生徒の理解」 調布市教育相談所
1988年7月26日
- i) 臨床的グループアプローチ研究会第6回夏プログラム 「エンカウンタープロセスグループ」 ファシリテーター 1988年8月16-21日
- (3) 学会等の役職その他の学外活動
 - a) 日本集団精神療法学会常任理事
 - b) 日本集団精神療法学会 学会誌「集団精神療法」編集委員
 - c) 日本集団精神療法学会 研修委員会 委員
 - d) 日本心理臨床学会 大学院カリキュラム検討委員会 委員
 - e) 日本精神技術研究所 NPCC トレーナー
 - f) 長谷川病院集団精神療法スーパーバイザー

デービッド W. ラッカム助教授

Conferences Attended:

- 1 . Japanese Psychological Association Annual Meeting, Tokyo, October, 1987.
- 2 . Japanese Psychological Association, Hiroshima, October, 1988.
- 3 . Occasional special meetings for guest speakers in Tokyo region.

Paper Presented:

Kuriyama, Y., and Rackham, D.W. Cooperative problem-solving in a cross-cultural context. Japanese Psychological Association Annual Meeting, Tokyo, October, 1987.

Papers Completed and Submitted for Publication:

Rackham, D.W. Classical conditioning : a conceptual revolution. Submitted to *IERS Journal*.

Rackham, D.W. Discriminative courtship conditioning in the pigeon, *Columba livia*, Submitted to *Japanese Psychological Reports*.

Ongoing Projects

Stewart, E.C., and Rackham, D.W. Implications of Edelman's theory of Neural Darwinism for an understanding of cross-cultural differences in perception. To be submitted shortly to a major American psychological journal ; paper presentation on this topic planned for American Psychological Association Annual Meeting to be held in New Orleans, U.S.A., August, 1989.

Rackham, D.W. Pavlovian discriminative conditioning in the black bass, *Micropterus salmoides*.

Rackham, D.W. Pavlovian discriminative conditioning in the three-spined stickleback, *Gasterosteus aculeatus*.

Kuriyama, Y. and Rackham, D.W. Cooperative problem solving in a cross-cultural context.

Other Activities

- 1 . English language proof-reading services for Japanese Psychological Association publications.
- 2 . A host of regular activities of an educational and service nature in connection with missionary associate status with the United Church of Canada and the United Church of Christ in Japan (Kyodan).
- 3 . Occasional counselling for students planning graduate study abroad or for

students in psychological distress

向井敦子講師

1. 研究活動

- (1) 対人状況における認知判断と視点との関係の検討
- (2) 日本人の対人行動の規定因に関する考察

2. 学会発表

- (1) 1987年10月, 日本心理学会第51回大会において, 「不協和状況の解釈と視点の位置 I. 態度に反する小論文を書く状況において II. 強制的承諾状況において」を発表(同大会発表論文集 pp.680-681)(深谷澄男との共同研究, 向井はII. を口頭発表) 同発表部門の座長をつとめた。
- (2) 1987年10月, 日本教育心理学会第29回総会において, 「両価性に対処する内的-外的統制の位置の検討 I. 両価性を相殺する統制の位置の検討 II. 両価性を一義化する視点の位置の検討」を発表(同発表論文集 pp.476-479)(深谷澄男との共同研究, 向井はII. を口頭発表)。

3. 著 作

相互障害・相互輔生・相互革生の見とどけと工作の実践 国際基督教大学学報 I -A 教育研究 30, pp.107-147, 1988 (深谷澄男との共著)

巖岩秀章副手

1. 研究活動

- (1) 88年3月 臨床的グループ・アプローチ研究会(主宰 小谷助教授)のワークショップ「エンカウンター・グループ in 東京」にファシリテーターとして参加。
- (2) 88年7月 道又副手とともに自主ゼミ実施。
- (3) 88年8月 臨床的グループ・アプローチ研究会のワークショップ「宮島プログラム」参加。

視聴覚教育研究室

主な研究活動

1. 第24回日本視聴覚教育学会・第32回日本放送教育学会連合大会

本研究室に事務局を置く日本視聴覚教育学会及び日本放送教育学会の連合大会が, 福島大学を当番校とし, 1987年10月10日(土), 11日(日)の両日, 同大学教育学部で開

催された。自由研究発表は38件あり、シンポジウム及び課題研究は次のようなテーマで行われ、研究室から中野教授、石本教授、および大学院生が参加した。

- シンポジウム：「多メディア時代における放送教育」
- 課題研究Ⅰ：「情意的目標の達成と視聴覚メディア」
- 課題研究Ⅱ：「映像データベースの構築と活用」

2. 修士論文発表会

博士前期過程修了者（1988年3月修了）による修士論文の発表会が1988年6月11日に行われた。発表者名と題目は以下の通りである。

発表者	題目
来嶋洋美	日本語教育における聴解練習と発話練習の順序性に関する研究
田口三奈	外国語教授における適性処遇交互作用に関する実証的研究
深山こずえ	画像提示による知的能力の促進に関する研究

3. 鈴木克明氏（東北学院大学専任講師）による講演

1981から1983まで視聴覚教育研究室で非常勤助手を勤め、その後フロリダ州立大学に留学し、博士号を取得した鈴木克明氏による、博士論文についての講演が1987年11月30日に行われた。博士論文の題目は以下の通りである。

“How is an Attitude toward Practical Use of a Newly Learned Skill Formed? - An Interdomain Interaction Study -”

4. その他

＊浦田俊之，田口三奈，斎藤由也，ネグレリ・キャシーらは，中野教授を代表とする昭和62年度科研一般(B)「音声・文字・画像提示による外国語教育 CAI コースウェア開発に関する基礎的研究」に参加し，英語学習用 CAI コースウェア開発の研究を行っている。

＊田地庸子，平形裕紀子，来嶋洋美，駒井利江らは，中野教授を代表とする昭和62年度科研一般(B)「音声・文字・画像提示による外国語教育 CAI コースウェア開発に関する基礎的研究」に参加し，日本語学習のプログラム作成と評価の研究を行っている。

＊佐々木輝美，和田正人は，阿久津教授と共に「テレビ番組類型別の接触行動，及び充足に関する研究」を行っている。

中野照海教授

I. 研究活動

研究助成を得て続行中のもの、および関心を持って継続中の研究は、次の通りである。

1. 「音声・文字・画像提示による外国語教育 CAI コースウェア開発に関する基礎的研究」(文部省科学研究費助成一般B 研究代表)
2. 研究課題「多メディア時代における放送教育の実践的研究」(放送文化基金研究助成 研究代表)
3. 「視聴覚教材情報全国システム整備調査研究」(文部省特別依託研究・日本視聴覚教育協会 主査) 1987年度末で終了
4. 「ニューメディア教材の研究開発事業」(文部省特別依託研究・日本視聴覚教育協会 主査)
5. 「教育テレビ放送と他のメディアとの最適組合わせによる教材の開発と効果の研究」(文部省特別依託研究・日本放送教育協会 主査)
6. 「教育放送の技術移転に関する研究—アジア太平洋地域教育放送シンポジウムの開催」(放送文化基金事業助成 シンガポール・カリキュラム開発研究所・教育放送国際協力推進会議事務局長)
7. 「放送番組とコンピュータの組合せによる外国語学習システムの開発」(放送文化基金研究助成 研究代表)
8. 「トルコ厚生省付属コミュニケーション・センター活動改善のための基礎調査」 JICA 調査団(団長) 1988年3月2日より13日まで在トルコ
 視聴覚教育の体系化の研究の一環として「視聴覚教育入門講座」を『視聴覚教育』(日本視聴覚教育協会)に連載中、コンピュータ・リテラシーの実際を検討しつつ「教師のためのコンピュータ・リテラシー」を『指導と評価』(連載)の編集・寄稿を行っている。「教育過程における画像の機能」と「授業の設計とモデル」に関する研究を継続している。

II. 研究発表

1. 課題研究「情意目的達成と視聴覚メディア」第24回日本視聴覚教育学会大会(福島大学) 1987年10月10日
2. 自由発表(浦田俊之と共同)「外国語学習における画像の効果の基礎的研究」第24回日本視聴覚教育学会(福島大学) 1987年10月11日
3. Report "Directions of Educational Broadcast Programs—Observation from Japan Prize International Contest of Educational Programs," The 3rd Symposium of Educational Broadcasting in Asia and Pacific Region, Sukhothai Tamachirat Open University (Bangkok), March 28, 1988.

Ⅲ. 著 作

1. 「コンピュータ・リテラシーをめぐる」『指導と評価』33巻4号 1987年4月 50-54.
2. 「CD-ROMの教育利用」『指導と評価』34巻6号 1988年6月 51-55.
3. 「教育の情報化」『指導と評価』34巻8号 1988年8月 30-33.
4. 「視聴覚教育とは——その変遷と課題」『視聴覚教育』1988年6月号 4-10.
5. 「視聴覚教育研究の展開」『視聴覚教育』1988年5月号 30-33.
6. 「授業過程における視聴覚メディアの選択」『視聴覚教育』1988年6月号 34-37.
7. 「プログラム学習教材の作成」『視聴覚教育』1988年7月号 30-33.
8. 「画像と言語の機能の相違について」『視聴覚教育』1988年8月号 30-33.
9. 「第三の放送教育——放送による大学公開講座から」『放送教育』1988年7月号 11-13.
10. 編著『実践教職過程講座第14巻 教育とメディア』日本教育図書センター1988年2月 350頁.

エッセイ

- ① AVE レポート「評価の評価——画家と音楽家とどちらがえらい——」『視聴覚教育』1987年10月 44-45.
- ② AVE レポート「老人のゆりかご——スキナーの場合——」『視聴覚教育』1987年11月 62-63.
- ③ AVE レポート「タバコとワープロと」『視聴覚教育』1987年12月 46-47.
- ④ AVE レポート「配付のしくみと配付のなかみ——ブルナーの蒔いた種子——」『視聴覚教育』1988年1月 44-45.
- ⑤ AVE レポート「現代の識字力か——コンピュータ・リテラシーをめぐる——」『視聴覚教育』1988年2月 38-39.
- ⑥ AVE レポート「家族計画とAV専門家——宇宙船地球号の運命をかけて——」『視聴覚教育』1988年3月 44-45.
- ⑦ AVE レポート「生涯学習とメディア——放送による大学開放——」『視聴覚教育』1988年4月 36-37.
- ⑧ AVE レポート「コンピュータ不安症——ボケを補うコンピュータ——」『視聴覚教育』1988年5月 38-39.
- ⑨ AVE レポート「リンクの時代——視聴覚教育の新たな可能性——」『視聴覚教育』1988年6月 44-45.
- ⑩ AVE レポート「視聴覚教育専門家の必修事項——視聴覚教育研修カリキュラムの改善——」『視聴覚教育』1988年7月 38-39.

Ⅳ. 講演等

1. 講演「放送教育研究をめぐる諸問題」旭川市教育委員会 1987年9月25日
2. 講演「多メディア時代における放送教育」長野県放送教育研究会（望月町）1987年10月16日
3. パネリスト「国際化の中の放送教育」全放連大会（福井市）1987年10月30日
4. 『日本賞』教育番組審査 1987年10月30日より11月11日（東京）
5. ラジオ（NHK 第2）「世界の放送教育」1987年11月22日
6. テレビ（NHK 総合）「世界の子どもは今」1987年11月13日
7. テレビ（NHK 教育）「世界の教育放送番組」1987年11月15日
8. Lecture “Problems of Evaluation in Audiovisual Education, ” JICA Okinawa International Center, December 10 - 11, 1987.
9. 報告「日本賞教育番組ローレンツ変換」放送教育開発センター 1987年12月17日
10. 集中講義「画像コミュニケーションをめぐる諸問題」大阪大学 1987年12月21日より24日
11. 講演「現代の視聴覚教育」鹿児島県立視聴覚教育センター 1988年2月5日
12. パネリスト「教育番組をめぐる諸問題」大学公開講座研究大会（熊本市）1988年2月19日
13. 報告「視聴覚教材情報システム整備調査研究」日本視聴覚教育協会（東京竹橋会館）1988年3月15日
14. Lecture “Research and Evaluation in Audiovisual Education, ” JICA Okinawa International Center, April 14 - 15, 1988.
15. 講演「教育工学の課題と現状」埼玉県教育工学研究会（浦和）1988年5月7日
16. 講演「放送利用研究のすすめ方」旭川市教育委員会 1988年6月10日
17. パネリスト「多メディア時代における放送教育の課題」全放連特別研修会（東京都立教育研究所）1988年8月2日
18. 講演「放送・視聴覚教育の課題と展望」山梨県放送教育・視聴覚教育研究会（甲府）1988年8月9日
19. Lecture “Problems of Evaluation in Audiovisual Education, ” JICA Okinawa International Center, August 25 - 26, 1988.
20. 講義「学校教育と情報化」国立教育会館筑波分室 1988年8月30日

Ⅴ. その他

1. 日本視聴覚教育学会理事、『視聴覚教育研究』編集委員
2. 日本放送教育学会理事、『放送教育研究』編集委員長
3. 日本教育工学会理事長，広報委員長，運営委員，研究奨励賞委員，論文賞委員，『日本教育工学雑誌』編集委員・編集幹事

4. 文部省社会教育審議会委員, 教育メディア分科会委員, 社会通信教育分科会委員, 視聴覚教育研修カリキュラム検討小委員会委員
5. 文部省学術審議会専門委員 (1988年3月まで)
6. 国立民族学博物館電算機委員会委員
7. 国立民族学博物館展示委員会委員
8. 日本放送協会学校放送中央諮問委員会委員
9. 「視聴覚教育賞」(文部省・視聴覚教育協会) 選考委員会委員
10. 日本教育工学協会理事
11. 日本機械振興会 JIS 規格委員会・映写機等小委員会副委員長
12. 『教育マイコン実践』(日本科学技術協会) 編集委員
13. 教育放送国際協力推進会議事務局長

石本菅生教授

I. 研究活動

昭和62年度科研一般(B)「音声文字画像提示による外国語教育CAIコースウェア開発に関する基礎的研究」(代表者: 中野照海)に研究分担者として参加。

II. 学会発表 (研究分担者として連名)

第32回日本放送教育学会・第24回日本視聴覚教育学会合同大会
「適応型ドリル・プラクティス・プログラム」に関する研究

- (1) 適応型プログラミングと専攻研究における知見

(合同大会発表論文集 p.71-72)

- (2) 日本語擬態学習の場合

(合同大会発表論文集 p.73-74)

III. 著 作

1. 適応型ドリルプラクティスプログラムに関する研究

—日本語擬態語学習用CAIシステムにおける復習スケジュールの終了基準—, 視聴覚教育研究, 第18号, 1988, p.49-73

(田地庸子・駒井利江・鈴木美加と共著)

2. 教師のためのコンピュータ・リテラシー 指導と評価, 日本教育評価研究会

- 3 コンピュータの仕組み —コンピュータとの対話—

Vol 33, No.11, 1987

- 7 教育情報の処理 —教育事務や教育研究データ解析のためのパッケージプログラムの活用—

Vol 33, No.6, 1987

- 9 プログラミング言語 ―ベーシックは永遠か―

Vol 33, No.13, 1987

- 14 表計算プログラム／スプレッドシートに数値を入れる

Vol 34, No.5, 1988

- 17 CAI 入門・その1 ―CAIを開発するまでに―

Vol 34, No.8, 1988

- 18 CAI 入門・その2 ―CAI作成に係わる問題と選択利用―

Vol 34, No.9, 1988

3. コンピュータの教育への利用と教育用ソフトウェアの問題

―CAI教材の自主制作は極めて困難―

文部省「教育と情報」第360号，昭和63年

Ⅳ. その他

日本視聴覚教育学会理事

日本放送教育学会理事

日本教育工学会編集委員

ライonz教育研究所 TEACHER'S NETWORK FORUM（電子教育会議）
理事

阿久津喜弘教授

Ⅰ. 研究活動

- (1) 青少年のメディア利用に関する研究。
- (2) 教育の国際化・情報化に関する研究。

Ⅱ. 学会発表

- (1) 「テレビ視聴による『文化化』の問題について」（佐々木輝美・岡見英一との共同研究）日本教育社会学会第39回大会（1987年10月8日－10日，東京学芸大学）。

Ⅲ. 著 作

- (1) 「教育の国際化に対応する学校経営」『教職研修』16巻5号，1988年1月，83-88頁。
- (2) 「情報化への総合性の重視」『教職研修』16巻6号，1988年2月，52-53頁。

Ⅳ. その他

- (1) 日本視聴覚教育学会理事，編集委員。

- (2) 日本放送教育学会理事，編集委員。
- (3) 日本教育社会学会評議員。
- (4) 三鷹市社会教育委員。

佐々木輝美副手

I. 研究活動

- 1. テレビ暴力番組類型化の基準設定に関する研究
- 2. テレビ暴力番組が子供に与える影響に関する研究
- 3. テレビコマーシャルの効果に関する研究

II. 学会発表

1987年10月，第39回日本教育社会学会において，「テレビ視聴による文化化の問題について」を発表。（阿久津喜弘教授，岡見英一と共同研究）

III. 著作等

- 1. 異文化適応研究の動向 — リエントリーショック（帰国ショック）の課題 —
『教職研修』13巻2号 1987年10月 54-60頁
- 2. テレビ視聴による「文化化」（enculturation）に関する実証的研究 『放送教育研究』 日本放送教育学会編 16号 1988年6月 61-74頁

田地庸子副手

I. 研究活動

- 1. コンピュータを用いた日本語学習支援システムの基礎研究と開発
- 2. 昭和62年度科研一般(B)「音声・文字・画像提示による外国語教育 CAI コースウェア開発に関する基礎的研究」（代表者，中野照海）のうち，日本語学習のプログラム作成と評価を分担。

II. 学会発表

1987年10月11日 第32回日本放送教育学会・第24回日本視聴覚教育学会合同大会において「適応型ドリル・プラクティス・プログラムに関する研究(2)——日本語擬態語学習の場合——」（駒井利江・石本菅生・鈴木美加との共同研究，田地が発表）（合同大会発表論文集 p.73-74）

III. 著作

「適応型ドリル・プラクティス・プログラムに関する研究——日本語擬態語学習用 CAI システムにおける復習スケジュールの終了基準——」（田地庸子・駒井利江

・石本菅生・鈴木美加の共著)『視聴覚教育研究』 第18号, 1988, 49-73

浦田俊之副手

I. 研究活動

1. 外国語教育における画像の効果の基礎的研究
2. 昭和62年度科研一般(B)「音声・文字・画像提示による外国語教育 CAI コースウェア開発に関する基礎的研究」(代表者, 中野照海)のうち, 英語学習用 CAI コースウェア開発を担当。

II. 学会発表

1987年10月11日 第24回日本視聴覚教育学会・第32回放送教育学会合同大会において, 「外国語(英語)学習における画像の効果の基礎的研究——英語の前置詞における文字と文字・画像併用との比較効果について——」(浦田俊之・中野照海との共同研究, 浦田が発表)(合同大会研究発表論文集 p.69-70)

田口三奈副手

I. 研究活動

1. 外国語教育における適性処遇交互作用の研究
2. 昭和62年教育改革の推進に関する研究委託「放送とメディアの最適組み合わせによる教材開発と効果の研究」(代表者, 中野照海)において教材開発協力者
3. 昭和62年度科研一般(B)「音声・文字・画像提示による外国語教育 CAI コースウェア開発に関する基礎的研究」(代表者, 中野照海)のうち, 英語学習用CAIコースウェア開発を担当

II. 学会発表

1988年7月31日 語学ラボラトリー学会第28回全国研究大会において「教育テレビ番組“Hearing a Story ~ Totto-chan”と組み合わせるメディア群の開発」(斎藤由也・岩佐玲子・中野照海との共同研究, 田口が発表)研究発表要綱 pp.43-46

駒井利江副手

I. 研究活動

1. コピュータを用いた日本語学習支援システムの基礎研究と開発
2. 昭和62年度科研一般(B)「音声・文字・画像提示による外国語教育 CAI コースウェア開発に関する基礎的研究」(代表者, 中野照海)のうち, 日本語学習のプログラム作成と評価を分担。

Ⅱ. 学会発表

1987年10月11日 第32回日本放送教育学会・第24回日本視聴覚教育学科同大会において「適応型ドリル・プラクティス・プログラムに関する研究(1)―適用型プログラミングと先行研究における知見―」(田地庸子・石本菅生・鈴木美加との共同研究, 駒井が発表)(合同大会研究発表論文集 p.71-72)

Ⅲ. 著 作

「適応型ドリル・プラクティス・プログラムに関する研究——日本語擬態語学習用CAIシステムにおける復習スケジュールの終了基準——」(田地庸子・駒井利江・石本菅生・鈴木美加の共著)『視聴覚教育研究』第18号, 1988, 49-73

斎藤由也副手

I. 研究活動

1. 昭和62年度科研一般(B)「音声・文字・画像提示による外国語教育 CAI コースウェア開発に関する基礎的研究」(代表者, 中野照海)に研究協力者として参加。

英語学習用CAIコースウェア開発および日本語学習用CAIコースウェアプログラム作成を担当。

2. 語彙力・読解力向上用 CAI による完全修得学習に関する開発研究
3. 昭和62年度文部省依託研究「放送と他のメディアの最適組合せによる教材開発との効果の研究」に教材開発協力者として参加。

教育テレビ番組“Hearing a Story ～ Totto-chan”と組み合わせるメディア群の開発と報告書を作成を分担。

Ⅱ. 学会発表

1. 1987年10月4日 日本教育工学会第3回大会において「読解力向上用CAIによる完全修得学習に関する開発研究 ―語彙の学習の辞書引き行動と学習所要時間を中心に―」(北條礼子, 岩佐玲子, 斎藤由也の共同研究, 北條礼子が発表)

大会講演論文集 pp.105-106

2. 1988年7月31日 語学ラボラトリー学会第28回全国研究大会において「教育テレビ番組“Hearing a Story ～ Totto-chan”と組み合わせるメディア群の開発」(中野照海・岩佐玲子・田口三奈・斎藤由也との共同研究, 田口三奈, 斎藤由也が発表)研究発表要綱 pp.43-46

Ⅲ. 著 作

1. 「語彙力・読解力向上用 CAI による完全習得学習に関する開発研究 ―学習所要時間, 辞書引き行動を中心に―」(北條礼子, 岩佐玲子, 斎藤由也)『視聴覚教育研究』第18号, 1988, 75-104

英語教育研究室

小林栄智教授

I. 研究活動

- (1) 中英語初期の *South English Legendary* の語い、意味変化について。
- (2) 中英語の *Apollonius of Tyre* の glossary を更に綿密なものにすること。
- (3) 古英語の *Apollonius of Tyre* 再考。
- (4) 大学・高校英語教材の研究・作製。

II. 著 作

- (1) "GLOSSARY to the Middle English Version of *Apollonius of Tyre*" (in progress).
- (2) (執筆・編集・共) 『講談社パックス和英辞典』 (in press).
- (3) (執筆・編集・共) 『講談社パックス英和・和英辞典』 (in press).
- (4) (共著) *Why English I*, 学図, 1988, 改訂。
- (5) (共著) *Why English II*, 学図, 1988, 改訂。
- (6) (共著) *Read English II*, 学図, 1988, 改訂。

III. その他

- (1) 日本英語学会・評議員, 1983ー。
- (2) 日本中世英語英文学会・評議員, 1987ー。

R. リンディ教授

1. A Study in Applied Phonetics : [s] and [z] in English : Frequency : Physiology : Morphophonemic significance ; Stridency ; etc. —An ignored phenomenon in English teaching.
2. On-going revision, editing and writing of Ministry of Education Approved text material for Middle School.
3. A Study on Classroom motivation for lower levels of English teaching.

ランドルフ H. スラッシャー教授

Continued work in language testing.

Developed a screening test for the YMCA

Basic English Screening Test YMCA English Center 1988

Began research in IRT (Item Response Theory)

My paper presented to the International Conference on Trends in Language Programme Evaluation was published in the preceedings of the conference.

Testing for Proficiency Level Placement, Diagnostic Assessment, Grade Assignment, and Program Evaluation.

Chulalongkorn University Language Institute 1987

F. C. パン教授

I. 研究活動

My research in 1987 has been greatly expanded which now includes : linguistics, sociolinguistics, psycholinguistics, neurolinguistics, and sign language. Because of the preparation of five textbooks, I have spread my time rather evenly across the four realms of investigation ; however, more work has been done in the first area owing to the fact that contracts have been signed with Cole and Whurr Limited to produce the textbooks which are herewith listed :

- (1) *Introduction to the Study of Language* edited by Bates L. Hoffer and Fred C. C. Peng

The total length is estimated to be 400 to 500 printed pages.

- (2) *Introduction to Linguistics* edited by William J. Sullivan and Fred C. C. Peng

The total length is estimated to be around 500 printed pages.

- (3) *Morphology : Analysis, Description, and Comparison* edited by David G. Lockwood and Fred C. C. Peng

The total length is estimated to be 350 to 400 printed pages.

- (4) *A Brief History of Syntax : Syntactic Theories in Historical Perspectives* edited by James W. Ney and Fred C. C. Peng

The total length is estimated to be 350 to 400 printed pages.

- (5) *Foundations of Syntax : An Advanced Study of Current Theories in Syntax* edited by James W. Ney and Fred C. C. Peng

I also presented three papers at the 13th Annual Conference of the Language Sciences Association of Japan (July 25—26, 1987) and a paper at the 9th Annual Conference of the Neurolinguistic Association of Japan (November 21—22, 1987), and taught a course entitled Introduction to Neurolinguistics at the 11th ICU LSSI (July 27th—31st, 1987).

In the field of neurolinguistics, I was particularly busy with outside lectures : The following are the lectures given in Taiwan and Japan : (1) What is Neurolinguistics? (March 10, 1987, Veterans General Hospital, Taichung) ; (2)

Neurolinguistics and Language Education (June 30, 1987, National Normal University, Taipei) ; (3) Neurolinguistics and Clinical Application (July 6, 1987, the Far Eastern Memorial Hospital, Pan Chiao) ; (4) Neurolinguistics and Epilepsy, The First Panel Discussion on Epilepsy (August 11, 1987, Veterans General Hospital, Taipei) ; (5) Agrammatism and Paragrammatism : A Neurolinguistic View (August 18 and 20, 1987, Symposium held at the 8th World Congress of Applied Linguistics during August 16–21, 1987) ; and (6) Language Impairment and Agrammatism (October 3, 1987, Brain Research Institute, Niigata University). I also attended the 2nd Congress of Asian and Oceanian Association of Child Neurology, September 17–19, 1987, held in Jakarta, and the 7th Asian Oceanian Congress of Neurology, September 20–24, 1987, held in Bali.

II. 学会発表

- 1 . 「夫婦間での呼称に関する一考察」 The 13th Annual Conference of the Language Sciences Association of Japan, July 25, 1987, with Mika Okubo.
- 2 . 「自閉症児の言語習得過程における一考察」 The 13th Annual Conference of the Language Sciences Association of Japan, July 26, 1987, with Yukari Torii.
- 3 . 「失語検査による自閉症児の言語能力についての一考察」 The 13th Annual Conference of the Language Sciences Association of Japan, July 25, 1987, with Mariko Shimizu and Yukari Torii.
- 4 . Agrammatism in an Manestic Patient, The 9th Annual Conference of the Neurolinguistic Association of Japan, November 21, 1987.
- 5 . Introduction : Agrammatism and Paragrammatism, Sydney, Symposium at the 8th World Congress of Applied Linguistics, August 18, 1987, Sydney, Australia.
- 6 . Agrammatism in Global Aphasia, Symposium at the 8th World Congress of Applied Linguistics, August 20, 1987, Sydney, Australia, with Mei Ji Horng.
- 7 . Agrammatism Across Modalities, Symposium at the 8th World Congress of Applied Linguistics, August 18, 1987, Sydney, Australia, with Kazuko Fukushima, Masamitsu Takatama, and Eriko Kuwayama.
- 8 . Summary : The Future of Neurolinguistics, Symposium at the 8th World Congress of Applied Linguistics, 20, 1987, Sydney, Australia.

III. 著作と発表論文

1986 *Language Research Bulletin*, Vol. 1, No. 1, The Division of Languages, Editor.

- 1987 a *Language Research Bulletin*, Vo2. 1, No. 1, The Division of Languages, Editor.
- 1987 a 『社会・人間とことば』, Editor, Hiroshima : Bunka Hyoron Publising Company.
- 1988 a *Language Sciences*, Nov. 3, No. 1, Editor, Oxford : Pergamon Press.
- 1988 b "On the Possible Clusters of Mg, Nd, and ng in Proto-Japanese," in *Language in Global Perspective : Papers In Honor of the 50th Anniversary of the Summer Institute of Linguistics 1935-85*, pp. 251-66, Benjamin F. Elson (ed.), Dallas : The Summer Institute of Linguistics.
- 1987 a "A Look at Proto-Japanese Phonology in the Light of Modern Dialects" (方言に残る古代日本語の音韻), in *Annual Report of Dialectology* (方言研究年報), pp. 237-62, Vol. 29, 1986, Yoichi Fujiwara (ed.), Hiroshima : 広島方言研究所.
- 1987 b "On the Concepts of 'Style' and 'Register' in Sociolinguistics," in *Language Topics*, pp. 261-79, Ross Steele and Terry Treadgold (eds), Amsterdam : John Benjamins Publishign Co.
- 1988 "On the Acquisition of Discourse among Autistic Children," *Language Sciences* 10. 193-224.

3. 大学院教育学研究科修士論文

1988年3月卒業者

A 教育哲学

1. 白石 玲子 林竹二の教育思想と実践について —教師の自己変革のための手がかり—
2. 秋山 登 学校教育における非行問題解決への一考察 —留岡幸助の「感化教育」を手がかりとして—
3. 樋口 宏一 R. シュタイナーの教師論
4. 塚越喜美枝 米国占領下沖縄における「日本国民としての教育」の意味

B 教育心理学

5. 足立 智昭 青年期における自己愛の発達に関する一研究 —日本語版自己愛人格目録を用いて—
6. 伏見 晃子 フォーカシング過程におけるフォーカサーの体験とそれについてのリスナーの理解との「ズレ」を判定するためのマ

ニュアルの作成と利用

7. 巖 秀章 エンカウンターグループにおけるメンバーの自己認知の変化
とファシリテーター認知の変化の過程との関連についての一研究
8. 鹿志村和子 ある総合病院の全面改築に伴う神経・精神科病棟のスタッフ、
および患者の心理的ストレスと援助システムに関する一研究 —コミュニティアプローチ—
9. 鈴木 義也 大学生の価値観と職業イメージに関する一研究

C 視聴覚教育法

10. 深山こずえ 画像提示による知的能力の促進に関する実験
11. 来嶋 洋美 日本語教育における聴解練習と発話練習の順序性に関する研究
12. 田口 三奈 外国語教授における適性・処遇交互作用に関する実証的研究

D 英語教育法

13. 野田眞佐枝 A Study of "Cunnan" and "Magan" in *the Peterborough Chronicle*
14. 佐藤 正人 Adult Second Language Acquisition and Parameter Resetting
15. 松岡みさ子 On the Distribution of Expletive *It*
16. 野口 克洋 A Study of the Objectives of English Education in Junior High School : with Special Emphasis on Acquiring an Interest in Language and Intercultural Understanding
17. 林 宏子 English in Singapore
18. 本間 猛 On Rule Orderings in the Lexical Phonology of English
19. 白山 啓子 Cultural Meaning and Language Education
20. 竹下 有美 Complement Inheritance in English Morphology
—Verbalization and Deverbalization—

1988年6月 2名

A 教育心理学

1. 須田佐津紀 Loevinger の理論に基づく女子大学生の自我発達の測定に関する研究

B 英語教育法

2. 佐藤 努 The Intonation and Pragmatic Functions of Yes-no and Declarative Questions

4. 大学院教育学研究科博士論文

1988年3月授与 2名

A 教育哲学

1. 宇野美恵子 大正自由主義教育における人格的主体の形成 ―自己超越の契機との関連において―

B 英語教育

2. 安井美代子 Ellipsis in English and the Principle of Full Interpretation

1988年6月授与 1名

A 教育哲学

1. 佐藤 尚子 二十世紀前半の中国におけるキリスト教学校とナショナリズム ―高等教育を中心にして―

5. 教育実習報告

1. 教育実習報告

1988年度教育実習には88名の学生が参加した。その詳細は次のとおりである。

1) 実習生総数 88名

男 子 24名

女 子 64名

2) 実習日程及び実習校

5月6日～5月19日 桐蔭学園高等学校（神奈川）

5月20日～6月11日 筑波大学教育学部附属中学校（東京）

5月23日～6月4日 水戸第一高等学校（茨城），関東学院高等学校（神奈川），小金高等学校（千葉）

5月23日～6月11日 筑波大学附属中・高等学校（東京）

- 5月26日～6月8日 八戸高等学校（青森）
- 5月30日～6月11日 聖望学園高等学校（埼玉），柏陽高等学校（神奈川），
藤蔭高等学校（大分），福部中学校（鳥取），九段中
学校，国際基督教大学高等学校，国分寺高等学校（東
京）
- 5月31日～6月13日 西高等学校（東京）
- 6月1日～6月13日 舟入高等学校（広島）
- 6月1日～6月14日 広島観音高等学校，広島城北高等学校（広島），佐賀西
高等学校（佐賀），生田高等学校，高津中学校（神奈
川），東邦大学附属東邦高等学校（千葉），伊那北高
等学校，屋代高等学校（長野），豊多摩高等学校（東
京），海南高等学校（和歌山）
- 6月3日～6月17日 成田西高等学校（千葉）
- 6月4日～6月18日 陶化中学校（京都）
- 6月6日～6月18日 中村高等学校，南山高等学校（愛知），紫雲中学校（香
川），土佐高等学校（高知），甲府東高等学校，駿台甲
府高等学校（山梨），座間市立東中学校，浅野高等学
校，相模工業大学附属高等学校（神奈川），静岡英和女
学院中・高等学校，下諏訪中学校（長野），北陸学院中
・高等学校（石川），千葉高等学校，専修大学松戸高
等学校（千葉），清風高等学校（大阪），恵泉女学園，三
鷹第二中学校，三鷹第四中学校，三鷹第五中学校，三
鷹第六中学校，小石川高等学校，世田谷学園高等学
校，成蹊高等学校，府中第五中学校，目黒第十中学校
（東京），足利高等学校（栃木），札幌北高等学校（北
海道）
- 6月6日～6月20日 雙葉高等学校（東京）
- 6月6日～6月25日 塚越中学校（神奈川）
- 6月7日～6月20日 遺愛女子高等学校（北海道）
- 6月8日～6月21日 女子聖学院中・高等学校，日比谷高等学校（東京）
- 6月9日～6月25日 芦原中学校（福井）
- 6月13日～6月24日 東洋英和女学院（東京）
- 6月13日～6月25日 狭山清陵高等学校（埼玉），横浜緑ヶ丘高等学校（神奈
川），静岡雙葉中・高等学校（静岡），長崎式見高等学
校（長崎），実践女子学園高等学校，武蔵野北高等学校
（東京）

6月17日～6月30日 岐阜高等学校（岐阜）
 6月19日～7月2日 西南女子学院高等学校（福岡）
 6月30日～7月20日 西南学院高等学校（福岡）
 8月23日～9月8日 依田窪南部中学校（長野）
 9月2日～9月15日 活水中・高等学校（長崎）
 9月7日～9月21日 明治学院東村山中・高等学校（東京）
 11月7日～11月26日 市川市立第一中学校（千葉）

3) 実習参加学生学科別内訳

学 科 性 別	男	女	計
人 文 科 学 科	3	6	9
社 会 科 学 科	7	8	15
理 学 科	2	6	8
語 学 科	4	24	28
教 育 学 科	4	15	19
教育学研究科	0	4	4
行政学研究科	0	1	1
比較文化研究科	0	0	0
理学研究科	0	0	0
聴 講 生	4	0	4
合 計	24	64	88

4) 実習生教科別内訳

教 科 性 別	男	女	計
社 会	6	5	11
理 科	1	3	4
数 学	1	3	4
英 語	15	53	68
宗 教	1	0	1
合 計	24	64	88

2. 教員免許状取得状況報告

1988年3月卒業生412名（学部357名，大学院55名）の内，一括申請により教員免許状を取得した学生の詳細は次のとおりである。

1) 教養学部学科別教免取得学生数（聴講生は除く）

学 科 性 別	取得者実数	中 一	高 二
人文科学科	5	5	5
社会科学科	9	8	9
理 学 科	9	6	9
語 学 科	11	8	11
教育学科	10	8	10
合 計	44	35	44

2) 教養学部教科別教免取得学生数（聴講生は除く）

種 別 教 科	社 会		理 科		数 学		英 語		宗 教	
	中一	高二	中一	高二	中一	高二	中一	高二	中一	高二
人文科学科							4	4	1	1
社会科学科	6	7					2	2		
理 学 科			4	5	2	4				
語 学 科							8	11		
教育学科							8	10	1	1

3) 大学院教免取得学生数

教育学研究科	教育哲学 教育心理学 英語教育 視聴覚教育	5
行政学研究科		1
比較文化研究科		
理学研究科		
合 計		6

6. 教育研究所員 (1989年2月1日現在)

所 長 教 授 星 野 命 (教育心理学)

教育哲学研究室

教 授 ベン C. デューク

〃 川 瀬 謙一郎

〃 讃 岐 和 家

準教授 立 川 明

助教授 林 昭 道

教育心理学研究室

教 授 原 一 雄

〃 都 留 春 夫

助教授 小 谷 英 文

〃 栗 山 容 子

〃 ディビッド W. ラッカム

講 師 向 井 敦 子

視聴覚教育研究室

教 授 阿久津 喜 弘

〃 石 本 菅 生

〃 中 野 照 海

英語教育研究室

教 授 小 林 栄 智

〃 リチャード・リンディ

〃 フレデリック C. C. パン

〃 ランドルフ H. スラッシャー